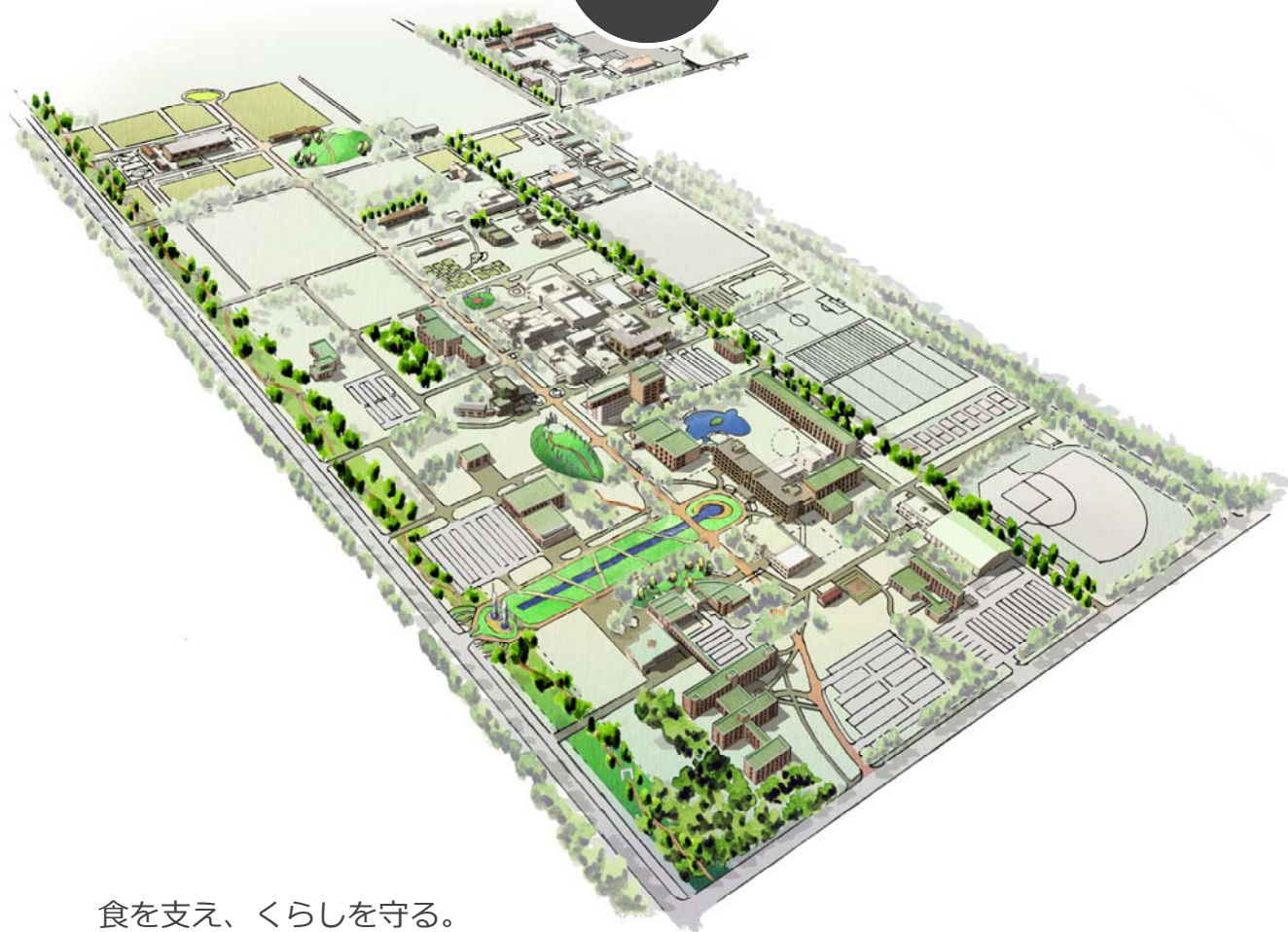


キャンパスマスタープラン 2017

<ダイジェスト版>

創造しよう。



食を支え、暮らしを守る。

2046年・キャンパス像

CampusMasterPlan 2017

1 キャンパスマスタープラン2017について

キャンパスマスタープラン（CMP: Campus Master Plan）は、大学の経営理念に基づき合意形成した、キャンパスの計画目標であり、今後のキャンパス施設計画・整備に際し、本学に求められる人間性、文化性豊かな教育・研究環境を創造するため、敷地利用等を始めとする空間構成とエネルギー及び交通等の骨格形成の方針を提示し、同時に今後形成される「キャンパス像」を大学全体で共有し、社会に示すものである。

帯広畜産大学の基本的な目標は、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、「食を支え、くらしを守る人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献すること」であり、これらの目標の実現を支援すべく、このキャンパスマスタープランに基づきキャンパス環境の整備を推進する。

【学長メッセージ】世界ナンバーワンの農畜産・獣医系の大学を目指して - 確固たる教育の推進 -

帯広畜産大学長 奥田 潔

・新たな教育体制・・・大学院改組

本学の強みである農畜産・獣医領域の融合性や国際性を基にした世界に通用する独自の博士課程を設置し、世界で活躍するリーダーを育成。共同獣医学課程において欧州獣医学教育認証を取得し、欧米水準の獣医学教育を実施。国際安全衛生基準の認証取得・維持を実践できる人材の育成。大学院畜産学研究科において、HACCP義務化や6次産業化といった生産現場の課題から流通まで一貫した知識とマネジメント能力を有する専門人材の輩出。

・研究力強化のための支援の充実

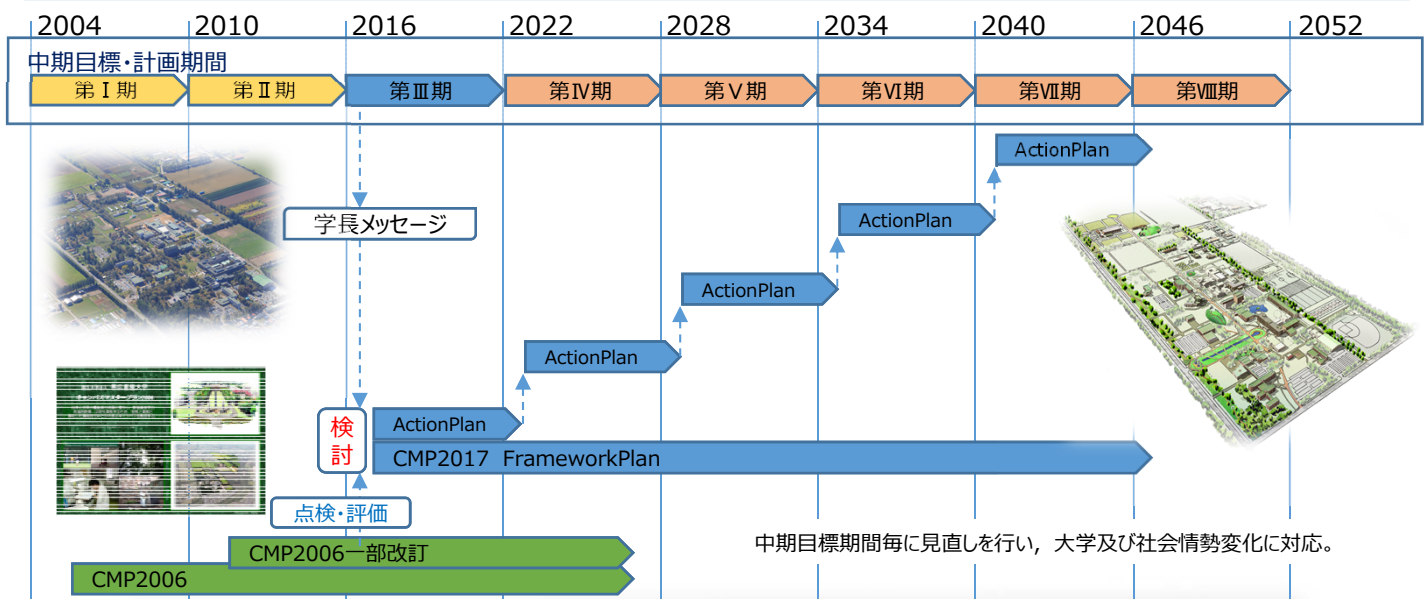
「世界ナンバーワンの農畜産・獣医系大学」へ近づくために、組織体制の再編や施設・設備のハード面の整備と共に研究力強化のための様々な支援を充実。

・誇らしい大学であり続けるための学生支援

未来に向かって学生にとって誇らしい大学であり続ける。

・持続可能な大学運営

学生に係る経費や人件費を安定的に確保し、光熱水費や老朽施設・設備の修繕費の増大等に対応するため、持続可能な大学運営を実施。質の高い教育・研究への支援、修学環境の充実、安定的な管理運営に重点的に配分。



2 キャンパスの現状と課題

施設の老朽化

築30年以上経過建物保有面積：約65%，約30%未改修。
→ 計画的な整備が必要。

ライフラインの老朽化

経年30年の電力線や給水管、暖房管、ガス管、消火管等が多数。
→ インフラ長寿命化計画に基づき計画的に整備する重要。

屋外環境の現状

キャンパス内の樹木は、経年とともに老木となり、倒木が発生しやすい状況。道路の未整備や大雨時に雨水排水が処理できない状況
→ 計画的にキャンパス環境の整備、維持が必要。

防災機能の強化

大規模災害時には避難場所として使用する場合を想定した準備が必要。
防災機能の強化及び災害時の管理機能強化が必要。

職員宿舎の入居率低下

ライフスタイルの変化や施設の老朽化により、年々入居率が低下。
→ 職員宿舎のあり方と共に、保有の有無についても検討が必要。

女子学生の増加

女子学生が増加、将来においても増加することが予想される。
→ 女子学生寮の確保やアメニティの充実が必要。

家畜・植物防疫について

教育研究を発展的に継続するため、防疫管理を徹底した施設整備が必要。

教育・研究機能の発展

多様な学習環境（アクティブラーニングスペース）を整備し、教育機能の充実を目指す。

産学官連携の強化

共同研究等の取組を推進、発展のため、戦略的な産学連携ゾーンの拡充や既存スペースの有効利用により機能強化を図ることが必要。

地域貢献の推進

地域開放している附属図書館など、特色や地域性を生かした整備が必要。

国際化の推進

国際共同研究や教育交流を推進するため、国際安全衛生基準適応の実習環境の整備、外国人研究者、留学生が集う教育研究環境の整備が必要。

環境問題への貢献

低炭素社会の実現に向けての取組をさらに充実・拡大し、国立大学法人としての役割を果たす義務。

キャンパス環境の充実

充実した心に残るキャンパス環境は愛校心をはぐくみ、重要な要因。

男女共同参画の推進

女性教員のワークライフバランスの更なる推進を図るため、環境整備が必要。

経営戦略の推進

施設利用の効率化を推進し、増加する維持管理費及び光熱費等を抑制、削減が重要であり、面積の増加を抑制しスマート化する事が必要。

3 キャンパスマスタープラン2017の基本方針

キャンパスは、本学の中期目標・中期計画などに示されるアカデミック・プランに沿った教育・研究などの諸活動が展開される舞台として、それにふさわしい環境と質の確保を図るため、以下の目標と方針によりキャンパスを形成する。

目 標

「日本と世界の農畜産の発展に寄与し、獣医農畜産学の先端的教育・研究を実施するため、地域と環境に調和した機能的でゆとりのあるキャンパスを創造する」

基本方針

■ 高度化・多様化する教育・研究に対応できる施設環境の整備

高度化・多様化する教育・研究に対応できる環境を整備する視点に立ち、本学の目指す教育・研究にふさわしい施設の機能や質の水準を備えるとともに、変化に対応できる柔軟性を持ったキャンパスとする。

■ グローバル社会及び地域に開かれたキャンパスの整備

高度な教育・研究機能を持ち、世界に開かれた情報発信拠点として、また、地域に開かれた学習・研究の場として大きな役割が求められている。これらの点に配慮した社会及び地域に開かれたキャンパスとする。

■ サステイナブルキャンパスの形成

国立大学法人として社会の要請にこたえるため、環境負荷を低減し持続可能なキャンパスを形成する。

■ 経営戦略に基づいた保有資産の有効利用

現在保有している施設の集約・共有を図ることにより資産を有効に活用し、保有資産の増加を抑制することにより将来の経済的負担とならないスマートなキャンパスをめざす。

4 キャンパスの30年後ビジョン - Framework plan -

地域とキャンパス

帯広市で推進する緑のネットワークとの連携

日高山脈や十勝川水系の河川緑地と帯広の森を骨格に、街路樹等の連続性を高め、緑のネットワーク形成をすすめている。本学キャンパスは帯広の森を中心とした緑地の一翼を担う。キャンパスの自然環境の育成は地域環境に大きく貢献。

帯広の自然をつなぐ緑の回廊（グリーンコリドー）の交点

本学は、帯広の森を核とする緑の回廊に位置づけられ、緑豊かな生態的にも多様な環境に育てることにより、帯広の生態軸を舞台とする次なる時代のキャンパス計画が可能。

緑の保全と潤いの創出

豊かな自然環境を育み、緑の拠点となるべく森の中のキャンパス形成を目指し、緑の整備及び保全を推進。緑は孤立させず連続させる事を原則とした「グリーンコリドー（緑の回廊）」作りを実施。

田園キャンパスとしての景観形成

外部（地域）に開かれた馴染みやすいキャンパス形成を目指し、開放的なキャンパスファサード（顔）となる景観の整備を行い、存在感ある田園キャンパスとしての環境を形成。



＜帯広市で推進する緑のネットワークと連携＞

キャンパスフレーム

本学のキャンパスは北に市街地、東は農業高校の圃場、南及び西に十勝の雄大な田園が広がっている。帯広市都市計画では市街地調整区域となっており、周辺と共に将来とも市街化されることはない状況。

キャンパスの約2/3以上が圃場や緑地である。より豊かな景観を醸成してゆくため、周辺地域との連携を考慮し、南北にのびるキャンパスフレーム、東西にのびるサブフレームを中心に大利用区分のエリアを明確にし、キャンパスの骨格とする。

- 北エリア …… 総合教育・研究基盤及び学生活動基盤となるキャンパスメインエリア。
- 中エリア …… 総合研究棟及び各種研究センターを核にした研究推進エリア。
- 南エリア …… 屋外における教育・研究活動エリア。
- フィールドエリア …… フィールド科学センターを核とした教育・研究活動エリア。
- 圃場エリア …… 建物などの建築を抑制する圃場主体のエリア。

保有面積の目標設定

ライフサイクルコスト及び建物維持費等を勘案した施設整備方針により、30年後の保有面積の目標を設定し、総面積の抑制を図る。

建物整備方針

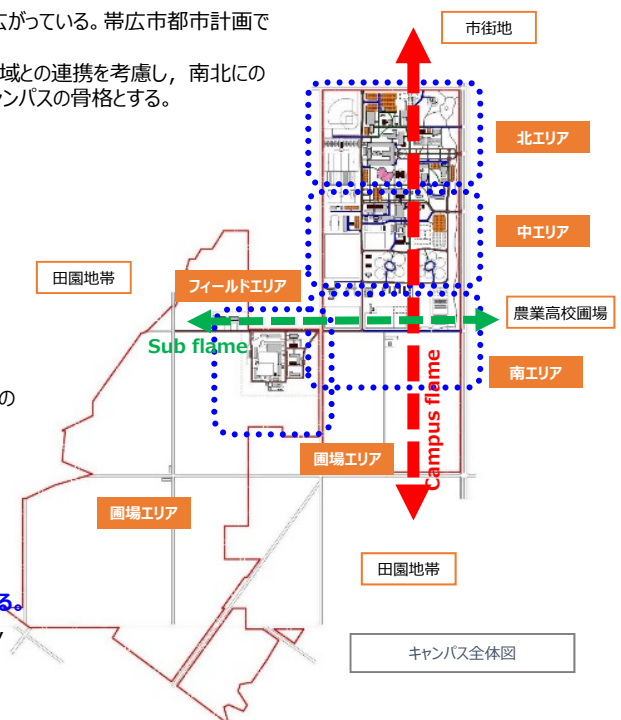
今後30年間における施設整備を計画するため、建物の経年により大規模改修時期及び改築時期及び建物寿命を設定する。

旧耐震建物の改築実施時期は、大規模改修の30年後とする。

新耐震建物は大規模改修時期を30年とし、2回の大規模改修を実施する。

目標：施設保有面積を30年後までに、2016年比 3% (2,200㎡) 面積を縮減する。

- 大規模改修時にスペースの再配分を行い、周辺の小規模建物等を取り込み集約化し、面積の縮減を図る。
- 改築整備時に複数建物の集約化を図り、共通部分等を共有化し、改築前面積の5%以上を削減する。（学生支援施設、宿泊施設、管理施設を除く）
- 大規模事業については、多様な財源での実施を検討し、将来にわたる維持管理費の低減を検討する。



大学の象徴となる施設等の継承

未来に向かって学生にとって誇らしい大学であり、心に残る大学であり続けるため、過去から現在、将来にわたって大学の象徴・特徴となる施設や屋外環境等について継承し保存する。

保存建物：外観において将来にわたり保存し継承する建物 → 厩舎

景観保存：外観及び外部空間において将来にわたって継承する景観
(正門～かしわプラザ外観～総合研究棟 I 号館正面外観
メインストリート白樺並木)

厩舎：S19建設



かしわプラザ



総合研究棟 I 号館



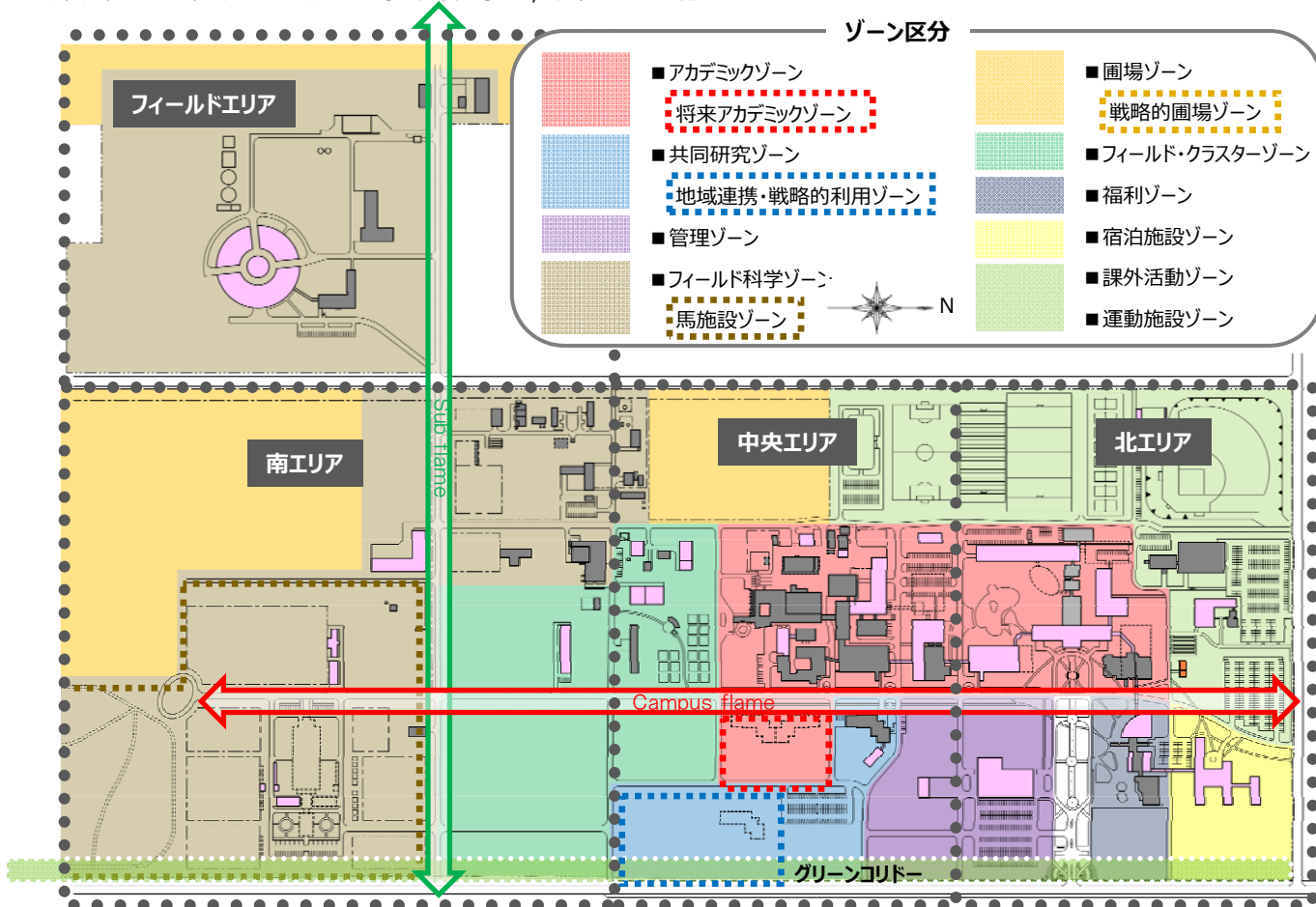
白樺並木



正門

キャンパスゾーニング

既存建物などの機能・形態及び今後の大学の発展を考慮し、以下のゾーンを設定



■ アカデミックゾーン

総合研究棟を主とした教育研究基盤施設及び図書講義ゾーン。改築時は窮屈にならない程度に低層棟（3階建てまで）とし、周辺環境に配慮した配置とする。豊かなオープンスペースを設けアメニティー空間を創造する。

■ 将来アカデミックゾーン

将来予測困難な研究施設群を配置する。新学部・学科の設置や産学連携による共同研究施設を配置する新しい分野のゾーンとする。

■ 共同研究ゾーン

産学官の共同研究ゾーン。過密にならないよう緑豊かな空間を形成する。

■ 地域連携・戦略的利用ゾーン

地域連携を中心とした大学が戦略的に利用するゾーン。大学及び地域産業の情報発信等を目的に、主に外部資金により整備する。

■ 管理ゾーン

事務局など大学管理施設を主としたゾーン。

■ フィールド科学ゾーン

フィールド科学センターを核とした教育・研究ゾーン。動物などを扱う研究施設は極力コンパクト化し集約する。

■ 馬施設ゾーン

将来大学の戦略により整備する馬関係の施設に特化したゾーン。

■ 圃場ゾーン

圃場として利用し、建物の建築を抑制するゾーン。

■ 戦略的圃場ゾーン

外部機関と連携し利用するゾーン。企業等に貸し付け利用可能なゾーン。

■ フィールド・クラスターゾーン

短期フィールド実験や小規模施設（ビニールハウス・動物飼育場など）を集約したゾーン。恒久的施設の整備は不可。

■ 福利ゾーン

学生及び地域に開かれたゾーン。プラザやローンなど緑に囲まれた潤いある憩いの空間を形成する。

■ 宿泊施設ゾーン

学生寮や国際交流会館等の宿泊施設を集約したゾーン。福利ゾーンと連携し、学生や留学生在が暮らすタウンを形成する。

■ 課外活動ゾーン

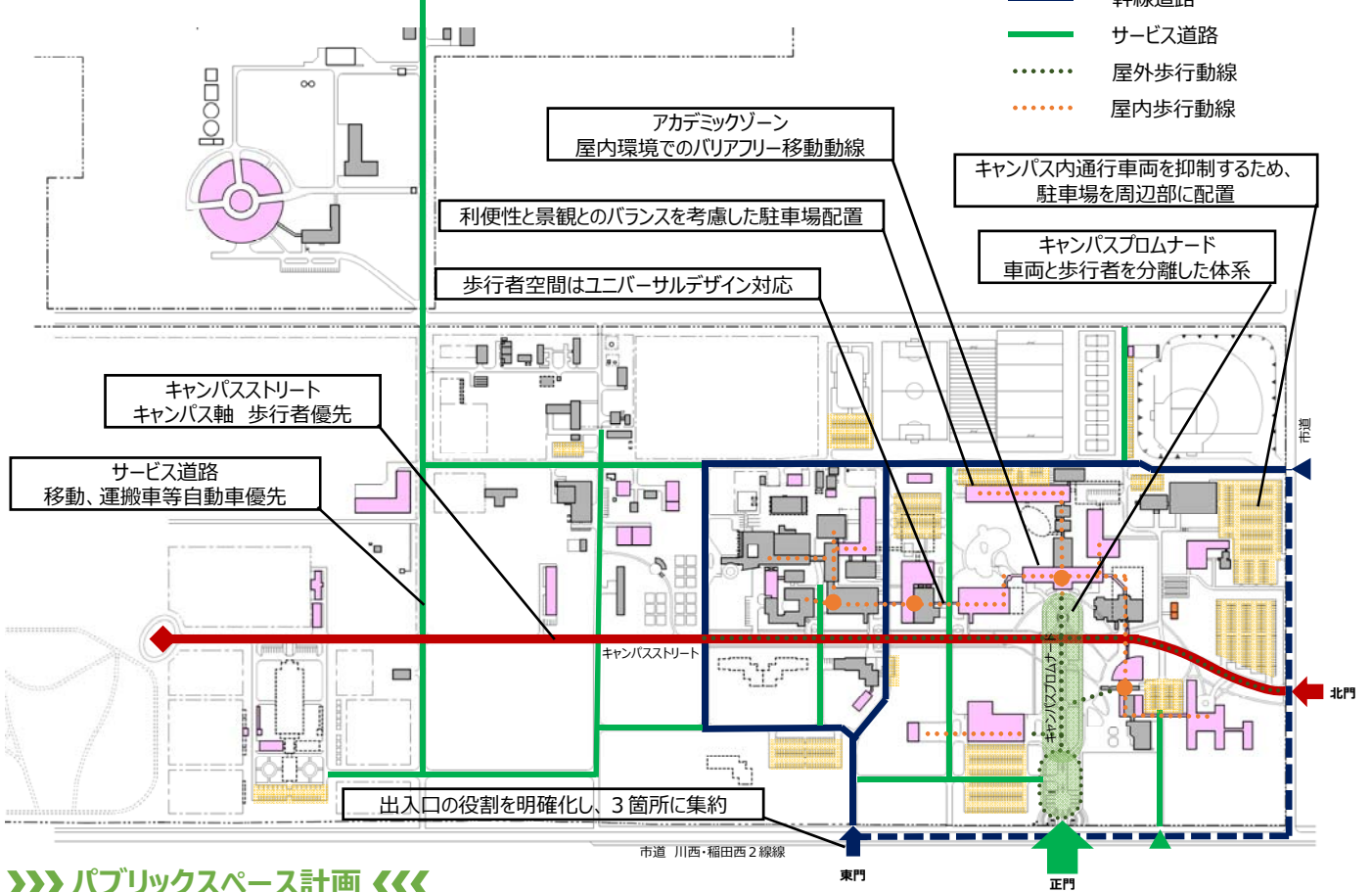
学生の課外活動の中心となる諸施設のゾーン。

■ 運動施設ゾーン

屋内外の運動施設を中心としたゾーン。

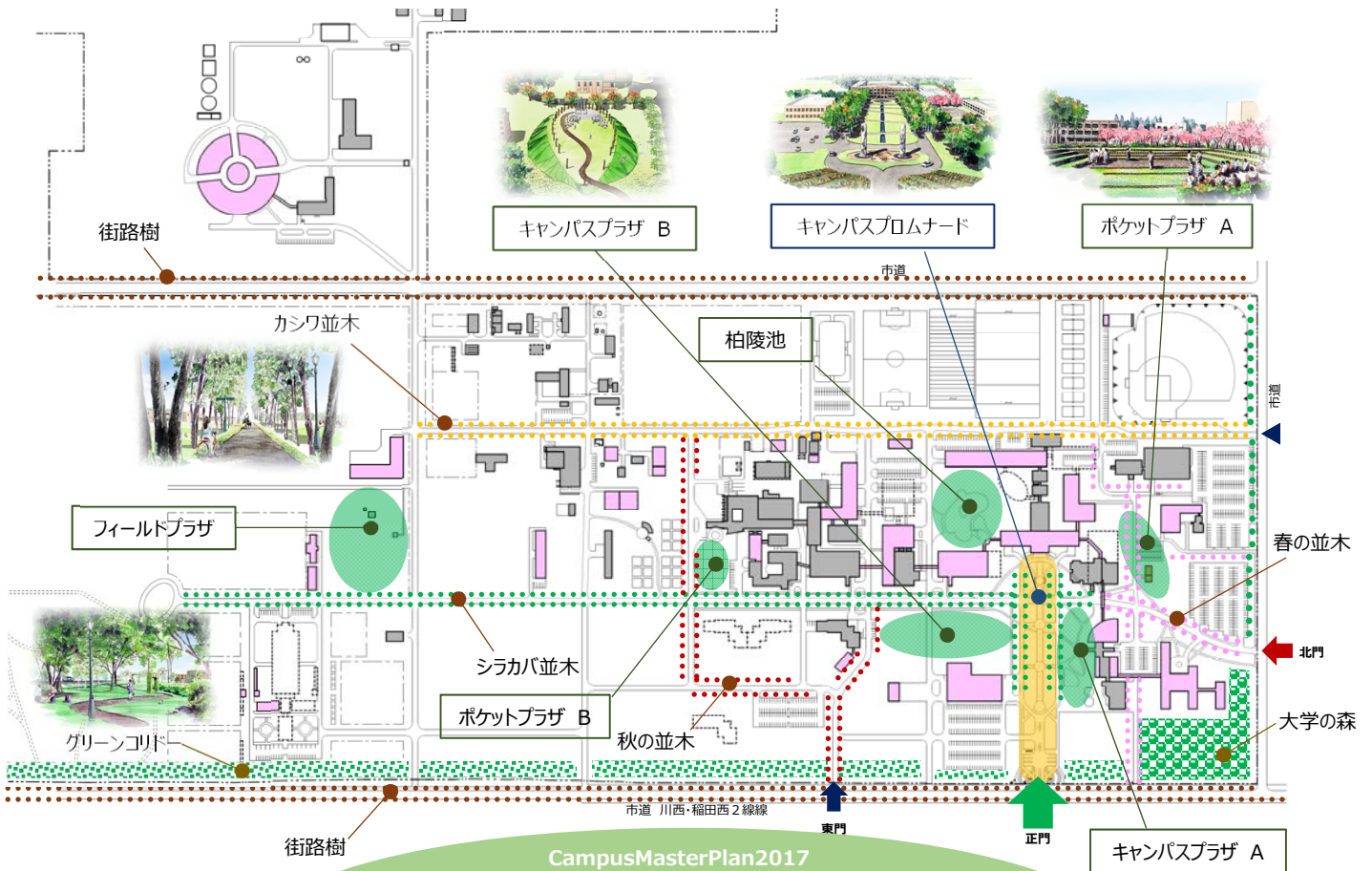
交通・動線計画

大学の諸活動を円滑・安全に行うため、以下を基本とする交通動線を計画し、安全で心地の良いキャンパスを目指す。
 ・静かで安全性の高い交通体系。 ・静観と利便性のバランスを図る。 ・環境・ユニバーサルデザインに配慮する。



パブリックスペース計画

学生・研究者等の交流を促し、さらなる大学の発展に寄与するため、各ゾーンをつなぐパブリックスペースを計画する。
 パブリックスペースは立地・特徴を生かした広々としたスペースとし、大学の象徴として心に残る景観とする。



》》 環境サステナビリティ計画 《《

キャンパスと地域との共生を目指し、緑化や廃棄物の適正な処理を中心にサステナビリティキャンパスを実践するとともに、社会の要請に応え、キャンパスの低炭素化を実現し、持続可能なキャンパスを形成する。

■ エネルギー削減計画

- ・ エネルギーの監視を強化し、エネルギーの使用状況の見える化を実施。
- ・ 施設の改修、新営時にネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）を推進する。
- ・ 再生可能エネルギー等の環境負荷の少ないエネルギーを積極的に採用。
- ・ 冷凍機等の実験機器の集約、更新を積極的に行う。
- ・ 実験機器や設備機器の選定、ライフサイクルコストを優先し、機器を選定。
- ・ 財政規模に応じたエネルギー削減計画を策定し、着実な取組を実施。

■ 有害廃棄物

- ・ 廃棄物処理についての啓蒙・説明周知を図り、環境配慮・処理コストを意識して、適切な処分とともに発生を削減する。
- ・ 全廃棄物に関する統合的なマニュアルを作成し、周知を図る。

■ 廃棄物管理・処理計画

- ・ 様々な廃棄物が適正に処理されるよう関連法令、自治体条例を遵守。

》》 ユニバーサルデザイン計画 《《

障害者差別解消法が施行され、施設面のバリアフリーの推進が求められていることから、本学を利用する全ての人々が安全かつ円滑に利用できるキャンパスを目指し、ユニバーサルデザインの視点から整備計画を策定し、改善を行う。

■ 建物などの改善（主に建物入り口及び内部移動空間）

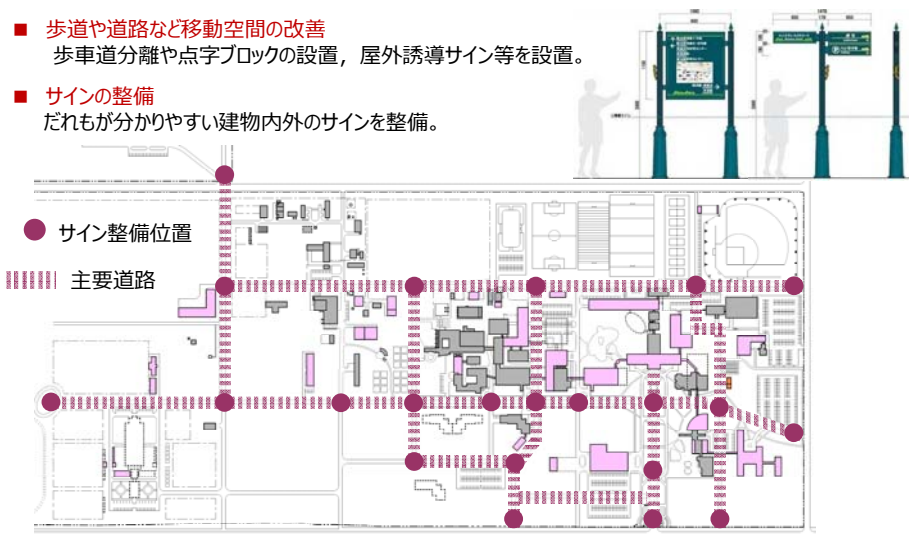
主要建物の入口は、スロープ、自動扉などに改善。建物内垂直動線を確保するE Vや手すりの設置及び身障者対応多目的WCなどを整備。

■ 歩道や道路など移動空間の改善

歩車道分離や点字ブロックの設置、屋外誘導サイン等を設置。

■ サインの整備

だれもが分かりやすい建物内外のサインを整備。



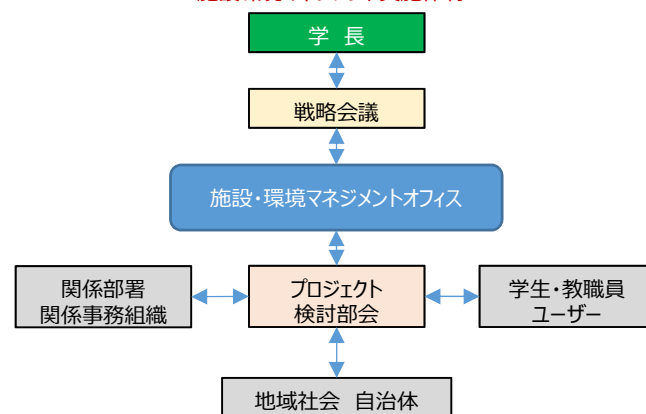
5 施設・環境マネジメント計画

施設環境は、大学の運営戦略上重要な資源。効果的なキャンパスを形成するため、施設環境マネジメントシステムを構築し、管理運営を強化する。

■ 経営戦略に基づいた施設環境マネジメント

- ・ 施設を教育研究の基盤として維持していくことが重要であるが、施設資産の増加は維持管理費を増加させ、将来、運営資金の逼迫を招く。
- ・ 第2期中期目標期間は、施設新営、大規模改修等の費用に約34億円国の補助金は約74%、事業実施に自己資金を補充。補助金の減少に伴い、多様な財源の獲得が必要。
- ・ 整備後経年数の進行面積により、事後修繕費の増加予想。計画的な予防保全の実施が必要。
- ・ 清掃、警備、暖房運転等の維持管理費は、約70,000千円程度保有面積の増加に伴う維持管理費が上昇傾向。
- ・ 近年の教育・研究の高度化に伴う実験設備機器等の増加や実習環境改善等により、光熱水費が上昇傾向。計画的な省エネ推進により、エネルギー使用量の縮減が必要。
- ・ 大学の目標を達成するため、施設環境のマネジメントを実施

施設環境マネジメント実施体制



キャンパスデザインマネジメント（クオリティ）

既存施設の性能調査により機能性・安全性を改善し、保有施設の長期活用を推進。

スペースマネジメント（スペース）

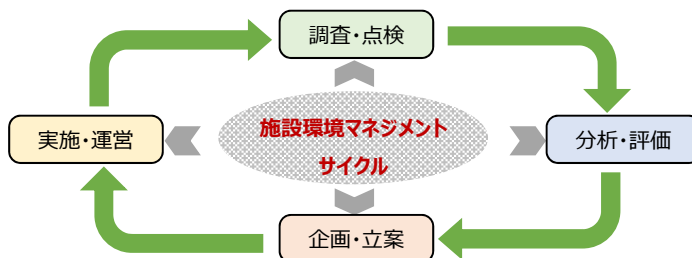
既存資産の活用状況調査により保有財産の効果的運用を推進。

ライフサイクルマネジメント（コスト）

施設規模の適正化、省エネルギー対策の推進及び予防保全の実施等により、毎年のコストの平準化を図り、トータルコストの縮減を推進。

キャンパスエネルギーマネジメント（サステナビリティ）

使用エネルギーを把握し、エネルギーの効率化を図り、社会からの要請である低炭素キャンパス化を推進。



6 キャンパス整備中期計画 - Action plan -

第3期中期目標期間における大学のビジョン及び戦略、課題、第4次国立大学法人等施設整備5か年計画に基づき、キャンパス整備中期計画を策定

ビジョン

地域及び国際社会に貢献するため、獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制、国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを有する我が国唯一の国立農学系単科大学として、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成する。

戦略

1. 教育研究機能を強化するため、国際水準の教育体制の整備、企業等との連携による人材育成、世界トップクラス大学との国際共同研究等を推進

- ・食と動物の国際教育研究拠点の形成
- ・国際連携強化による獣医農畜産融合研究の推進
- ・グローバル社会の要請に即した国際通用力の高い農学系人材の育成
- ・大学院畜産学研究科博士課程の再編
- ・欧州獣医学教育国際認証取得のための整備及び教育体制の整備

2. 社会貢献機能を強化するため、農業関連企業・団体、地域住民等に対する社会人教育、地方公共団体等と連携した地域創成事業を充実する。

- ・地域社会人に対する「食の安全教育」の推進
- ・酪農経営、獣医療特定分野、農業6次産業化等に関する社会人教育
- ・農業共生圏高度専門家育成
- ・地方公共団体等と連携した地域創生

3. 国際貢献機能を強化するため、国際機関、国際協力機関等と連携した教育研究事業による海外展開、海外拠点整備を推進する。

- ・南米農学拠点形成によるグローバル人材育成、国際貢献
- ・海外教育研究拠点の形成
- ・国際獣疫事務局（OIE）等と連携した国際貢献

国立大学法人等施設整備5か年計画

1. 安全・安心な教育研究環境の基盤の整備

- ・耐震対策（非構造部材を含む）や防災機能強化に配慮しつつ、長寿命化改修を推進
- ・老朽化した基幹設備（ライフライン）を更新

2. 国立大学等の機能強化等変化への対応

- ・大学等の機能強化に伴い必要となる新たなスペースを確保
- ・ラーニング・commonsやアクティブ・ラーニング・スペースの導入を推進
- ・長寿命化改修に合わせ、機能強化に資する整備を実施
- ・地域産業を担う地域人材の育成など、地域と大学の連携強化のための施設整備を実施等

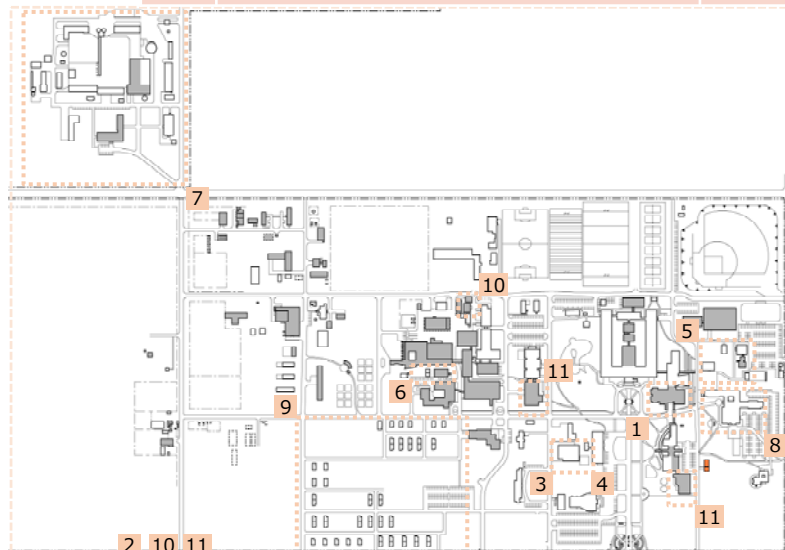
3. サステイナブル・キャンパスの形成

- ・今後5年間でエネルギー消費原単位を5%以上削減
- ・社会の先導モデルとなる取組を推進

本学のビジョン・戦略、施設整備5か年計画及び課題を踏まえ下記のキャンパス整備中期計画（Action plan）を示し、着実な整備を実施する。

	Action plan	大学戦略	施設整備5か年計画	備考
1	附属図書館機能改善計画	戦略2	計画2	施設整備補助金、自己財源
2	ライフライン再生計画		計画1	施設整備補助金
3	キャンパスエネルギー削減計画（暖房設備）		計画3	施設整備補助金
4	防災拠点整備計画		計画1	施設整備補助金、自己財源
5	課外活動ゾーン再生計画		計画2	施設整備補助金、自己財源
6	国際貢献機能強化における施設整備計画	戦略1・3	計画2	施設整備補助金
7	畜産フィールド科学センター再開発計画	戦略2	計画2	施設整備補助金、自己財源
8	学生寄宿舎改善計画	課題		自己財源
9	職員宿舎総合計画	課題		自己財源
10	基幹・環境整備計画		計画1	施設整備補助金、自己財源
11	施設機能再生計画（長寿命化）		計画2	施設整備補助金、自己財源

キャンパスマスタープラン関連資料





食を支え、暮らしを守る。



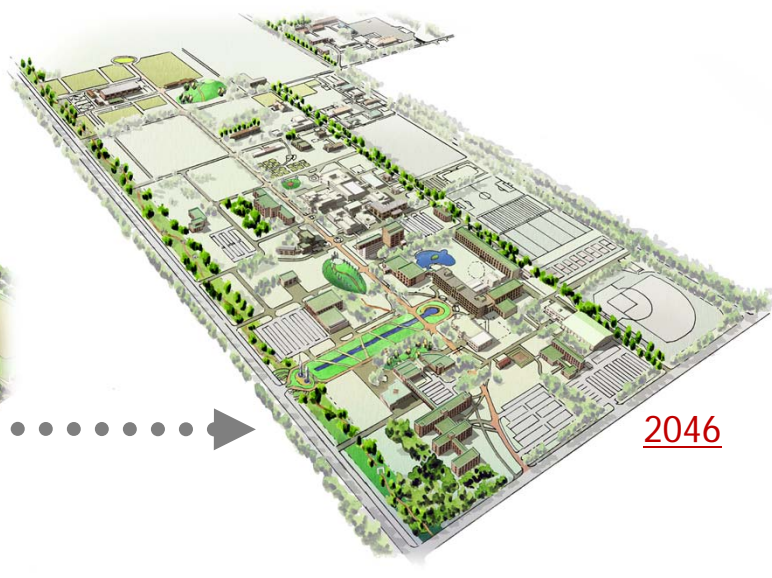
1965



2017



2017



2046

国立大学法人帯広畜産大学 キャンパスマスタープラン2017
<ダイジェスト版>

平成29年6月22日 役員会決定



帯広畜産大学
Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine

平成31年3月29日 改訂